

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103698
法人名	有限会社ラッセル社
事業所名	グループホームみなみ
所在地	松山市津吉町1142番地1
自己評価作成日	平成24年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にしており、利用者にとっての身近な存在であり、安心できるように努力している。
 玄関前にメダカや季節の花等落ち着ける雰囲気にしている。
 職員間の連絡や相談が気軽に行えている。
 入居者に対して個別の対応ができるよう日々相談できるようにし、身体的・精神的な細やかな気づきを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、「強制されずにできる生活リハビリ」を大切にケアに取り組んでおられ、利用者の「できること、できないこと」、「行いたいか」「行いたくないか」等を、言葉や動作から汲み取り、「自分のことは自分で行っている」と思えるような介護を目指しておられる。たとえば、自室や共用空間のモップかけをされたり、ご自分の衣類をご自分で「洗濯」、「干す」、「たたむ」ことができるよう、職員はサポートされている。入浴や排泄は、同性介助を基本に支援されている。
 ●職員がサポートして、利用者お一人がご家族にお手紙を出された際、ご家族がたいへん感激されたことがきっかけとなり、お正月には、利用者個々に写真を採り入れて、ご家族宛てに年賀状を出すことを計画されている。「椿祭り」は、利用者にとっても馴染みのあるお祭りであり、利用者も出かけて楽しめるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームみなみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

池川 翔

評価完了日

2012 年 12 月 4 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との繋がりを大切にしながら、人生の先輩として敬意・尊敬を持ち、且つ、日々よりよいサービスの提供・個人個人その人らしく生活できることに念頭をおき、理念としている。また、実践できるよう話し合いもその都度行なっている。 (外部評価) 開設時つくった「ボケても自分らしく生きる」という理念に、「地域の皆さまとつながり(Relation)、高齢者を尊敬し(Respect)、介護の質を高める(Quality)」と追加して、玄関に掲示されている。法人代表者は、理念を日々実践できるよう、職員に「観察と気付きの大切さ」等を話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 組入りして役員をしたり、清掃等にも努力している。また、地方祭や鱈のつかみ取り等の行事に参加している。 (外部評価) 事業所は、「地域の中の普通の家」として、ホームの看板を敢えて上げず、地域の中に出かけて交流することで事業所の存在を知ってもらえるよう、取り組みをすすめておられる。町内恒例行事の「うなぎつかみ大会」には、利用者1名と職員で参加して、うなぎを3匹つかみ、みなでおいしくいただいた。10月には、地域の新しい行事「ふれあいフェスティバル」に参加され、食券を買ってバザー等を楽しまれた。ビニールひもで利用者で作った「ポンポン」を、地域の保育園にプレゼントされたり、障害者支援施設の夏祭りにも出かけて交流されている。秋祭りには、地域の神輿や獅子舞が来てくれる。日々の中では、野菜を届けてくださる方や近所のお年寄りがお茶を飲みに来られることもあり、管理者は、今後、「気軽に立ち寄り、相談してもらえるような事業所」を目指して、さらに取り組みたいと話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現在は推進委員会での疑問点等を行えしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の情報やホームでの出来事に関して詳しくお話し、良い点も悪い点も話し合いができるよう努めている。また、自分たちの姿勢を提示して意見を求めたりしており、ホームで困難な面を提示することで参考な意見等を頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議は、事業所の食堂で開催されており、市の担当者や地域包括支援センター、区長や民生委員、元民生委員、ご家族・利用者が1名ずつと、その日の勤務職員も参加されている。会議では、利用者の受診や入退院の状況、外出や日常の活動の取り組み、今後の予定等もお知らせして、意見をうかがっておられる。メンバーの方から、外出時に一緒に付き添ってくださる地域ボランティアを紹介していただいたり、地域行事を教えていただいたりして、出かけるきっかけにされている。会議の最後に、次回の会議開催日程を決めておられ、すべてのご家族に案内を送付されている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、その時々情報や注意事項のアドバイスをいただいている。又、その他不明な点があれば、その都度連絡、相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者からは、季節に応じて、インフルエンザの予防や、熱中症に関する注意事項についてアドバイスをいただき、ケアに採り入れ取り組まれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全てが身体拘束の禁止事項を理解し、拘束のないケアを行なっている。</p> <p>(外部評価) 日中は、玄関に鍵をかけることはなく、職員は、利用者を見守っておられ、気ままに出かける利用者には、職員と一緒に歩くようにされている。以前、「バス停はどこ？」と繰り返し尋ねる利用者がおられ、事業所では、玄関前の庭にバス停の標識とベンチを設置された。利用者は、外に出てベンチに腰かけ、よく過ごされていたようだ。職員は、身体拘束や言葉の拘束等について、内・外部の勉強会でよく学んでおられる。法人代表者は、職員の言葉遣いで気になる場面がみられた時には、毎月のミーティング時に採り上げて、みなで話し合い、意識統一を図れるよう取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員の普段の様子を観察すると共に、利用者の身体の観察も同時に行なっている。身体的・精神的変化を見逃さないように勝因全体でお互い注意し、報告・連絡等も行なっている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>実際に成年後見制度を1名利用されており、勉強会にも参加し、成年後見人の方とも相談等行なっている。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約等については、契約書・重要事項の説明を行うとともに、僅かな疑問に対してお答えしている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>家族や利用者との間で、出来るだけ細やかな対応をし、連絡したり、来所時にはゆっくり話す機会をもち、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族には、毎月、利用料を持参していただくようにして、事業所に訪れる機会を作っておられ、利用者の様子等をみていただいたり、日頃の様子について報告されている。ご家族へのアンケートは、2年に1回実施する外部評価実施時の「家族アンケート」と、事業所独自でもアンケートを実施して、毎年、事業所サービスへの満足度を知ることができるよう、取り組んでおられる。ご家族の中には、入居後、利用者が「おしゃれになった」「顔がやさしくなった」と感想を話してくださる方もおられるが、事業所やケアについての意見や要望はあまり出されないようで、法人代表者は、「次回実施するアンケートでは、項目等を工夫して、ご家族の意見を引き出した」と考えておられた。</p>	<p>現在、休刊となっている「みなみ通信」の再開を考えておられる。さらに、運営推進会議の内容をご家族に知らせたり、撮り溜めている写真を一緒に見るような機会を作る等、事業所からご家族へ情報発信する取り組みも工夫され、意見や要望をうかがってみてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に対して、職員の提案・意見を定期的なミーティングでの話し合いを行ったり、個々でも相談しやすいような雰囲気作りを心がけている。代表・管理者の他に、ホーム長、主任を含め、互いに協力し合っている。	
			(外部評価) 職員間の連携がよく、職員から行事の企画や外出先等の提案も積極的に行っておられる。職員の提案で午後のおやつ後に、体操の時間を作られた。管理者は、外部研修の情報を職員に知らせて、職員個々には、年1回は外部研修に参加できるよう、声をかけておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 少しでも還元できるように加算基準を満たす努力をしている。また、勤務年数に応じた昇給、加算分の還元を行う等している。	
			(外部評価) 研修を勧めたり、資格取得に対しても積極的に勧め、スキルアップに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が他施設に見学に行ったり、来て頂いたり、話をしたりしてお互いの良い所を伝え合ったりし、良い所は取り入れている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と話す時間をもち、出来るだけ多くの事を聞き、何が不安で何を必要としているかを理解するようにしている。本人が話したいときに、待つではなく先ず耳を傾ける努力を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦労話や、サービスに対する不安や意見にその都度対応している。また、家族が気軽に話せる関係作りにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人の意見を聞き、先ず何が必要か検討し、支援を行なっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の不安や楽しみ等を知ること努め、ともに支えあうよう努めている。時には家族・知人になり、よりよい理解者になるよう努め、信頼関係が持てるようにしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会の際には、出来事やその時の利用者の様子や現在の身体・精神状況等日頃の状況を報告し、ともに介護について話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が連絡を希望している場合は、希望に沿うようにしているが、馴染みの場所を思い出せない人も多くなっているのが実情である。 (外部評価) 職員がサポートして、利用者お一人がご家族にお手紙を出された際、ご家族がたいへん感激されたことがきっかけとなり、お正月には、利用者個々に写真を採り入れて、ご家族宛てに年賀状を出すことを計画されている。「椿祭り」は、利用者にとっても馴染みのあるお祭りであり、利用者も出かけて楽しめるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 昔遊んだ事、歌等を話題にしたりすることで全体の会話へと繋げ、お互いに懐かしんだりして交流を持つことができるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院後体調が思わしくなく、退去となった方にも気軽に相談してもらえるような関係作りに努めている。相談には、誠意を持ってお答え、対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、ひとりひとりが自分で決めたり、選んでもらう場面を作っている。選ぶのを待つ等の配慮を行なっている。また、個人個人の意見も大切にしている。困難な場合もその人に何が必要であるか検討した上で行うようにしている。 (外部評価) 職員は、日々の会話や、又、ご本人の表情や行動を観察して、思いや意向等の把握に努めておられる。「なんとなく元気がないと感じる時」「考え事をしているような時」には、職員は、利用者寄り添い、思いを探るようにされている。又、職員は、日常の中で機会を捉えてさりげなく、終末期のあり方についても利用者に関心するようにされている。	職員は、利用者のことをよく知っておられるが、今後さらに、利用者が重度化したり、終末期を迎えたりして、ご自分から意思表示することが難しくなったような場合でも、その人らしい暮らしが続けられるよう、日頃から利用者の思いや意向についての情報をまとめておかれてはどうだろうか。利用者個々のアセスメントの充実に取り組み、ケアの質向上につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの家具等馴染みのものを置き、家庭の雰囲気作りに努めている。また、家族より情報を聞く等している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、ひとりひとりの健康状態を把握し、声掛け・会話・普段の様子を観察することにより、身体・心の状態を知るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族・医療関係者・職員と相談し、意見等も検討し、毎日職員同士で話し合いも行き、利用者に一番良い、一番必要としていることを介護計画として作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、「実施できたか」を毎日、「○・×」でチェックしてモニタリングを行っておられ、1ヶ月ごとにまとめ、3ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげておられる。食欲や体力が低下した状態で入居された方もあり、事業所では、はじめに「美味しい食事がしたい」と目標を立て、歯科衛生士の協力も得ながら口腔ケア等も支援された。体力の回復に合わせて「歩けるようになりたい」と目標を立て、さらに少し動ける状態に回復された頃にトイレで排泄できるよう支援し、6ヶ月経った頃、ご本人から「ここに来て良かった」と感想を話してくださったようだ。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 一ヶ月毎に介護計画の評価を行なっている。経過記録を出来るだけ具体的に個人個人で記入してもらい、一ヶ月の経過記録より評価している。情報の共有、介護計画にも生かせている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院・外出等、個人の希望に沿って出来るだけ職員で対応している。家族の希望があれば宿泊も出来る。出来るだけ個別にも対応できるよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 現在活用できる方がいないが、本人の今までの生活や思いに沿った支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医については、本人・家族の意向を聞き、以前からかかっているところを希望される方に関しては、従来通り同じところを受診してもらっていたが、かかりつけ医の往診を受けている。また、急変時も医師に相談できよう連携をとっている。	
			(外部評価) かかりつけ医は、ご本人・ご家族の希望で、現在は、全員が月2回、協力医の往診を受けておられる。専門医の受診は、ご家族や職員が付き添っておられる。歯科は、訪問診療を利用されている。職員は、1月に消防署の指導のもと、救急救命法やAED(自動体外式除細動器)の使用法について学ばれた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員に相談して、異常の早期発見・医師への報告等を行い、重症化しないようにしている。介護職員には、ほんの僅かな気付きも報告してもらおうようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院した際は、家族との連絡、病院に状態を定期的に聞きに行く等して退院時期も早期に相談し、対処出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 個々のレベルに合わせた話し合いを持っている。体調の変化や身体・精神状態の変化に対して、家族にその都度話し、理解してもらっている。重症化する恐れや緊急時の対応等も医師や看護師を交えたり行ったりもしている。また、事業所での重症化・緊急時のあり方等も話し合いさせてもらっている。	
			(外部評価) 事業所では、契約時に、「希望があれば看取り支援を行える」ことをご家族に説明され、その後、利用者の状態に応じて、より具体的に「事業所でできること・できないこと」を説明しながら、今後のことについて話し合っておられる。法人代表者は、医療行為がない場合は、看取り支援に取り組みたいと考えておられる。職員は「看取りのあり方」の外部研修に参加されて、ご家族と協力しながら利用者の「最期を看取りたい」という思いを持っておられる。現在、看取り支援を希望されているご家族もおられるが、医療行為が必要なこともあり、ご家族や市の担当者の方等と話し合った結果、特別養護老人ホームに申し込みをされた事例もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員に来て頂いて、緊急時処置を学んだり、急変時の応急手当も利用者の個々に合わせて行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地震等の配慮、火災時の避難等に配慮して、家具の配置・ベッドの配置など気をつけている。 入居者の状態により、ベッド向きが困難なところには直接ベット上に被さらないようにするなど。 同じ敷地内にある代表宅に緊急ベルを設置した。 (外部評価) 事業所は、年2回、避難訓練を行っておられ、消防署の協力のもと、職員が重度の利用者役になり、毛布を使ってベッドから降ろし、避難させる方法を体験された。12月に事業所内で地震想定での避難訓練を予定されている。いざという時は、地域の民生委員の方が駆けつけてくれるようになっている。	事業所の地域は、水害の危険地区にもなっており、災害発生時、地域の方と、どのように協力し合えるかということについて運営推進会議等で話し合ってみてはどうだろうか。夜間や地震、水害等、いろいろな災害の場面を想定した避難訓練を重ねられ、利用者や職員、地域の方達の安全や安心に向け、取り組まれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々に合わせた対応、会話をするように心がけている。 (外部評価) 事業所は、「強制されずにできる生活リハビリ」を大切にケアに取り組んでおられ、利用者の「できること、できないこと」、「行いたいか」「行いたくないか」等を、言葉や動作から汲み取り、「自分のことは自分でやっていると思えるような介護」を目指しておられる。たとえば、自室や共用空間のモップかけをされたり、ご自分の衣類をご自分で「洗濯」し、「干す」、「たたむ」ことができるよう、職員はサポートされている。入浴や排泄は、同性介助を基本に支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 状況に合わせた対応ができるように職員同士の情報交換も頻繁に行いながら、利用者に強制しないで安心して生活できるように働きかけを行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、日向ぼっこ、買い物、草引き、食器拭き、洗濯物たたみ、テレビ鑑賞、ボール遊び等みんなが同じ時間に動くのではなく、ひとりひとりのペースに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が声かけし、カットや整髪したりしている。希望されれば近所の美容院等に対応することも出来る。各人の好みに合わせて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒にスーパーの広告や料理の本などを見て食材や料理について話をしたり、味見などしてもらっている。また、個人の能力に合わせたお手伝いもして頂くようにしている。	
			(外部評価) 利用者と職員で食材の買い出しに行かれている。その日の調理担当職員が冷蔵庫の中の食材をみて、利用者や相談しながら献立を考えておられる。利用者の希望は、「煮物」が多いようだ。又、以前、寿司職人だった職員がいて、利用者は出来たてのにぎり寿司を楽しむこともある。事業所では、「水分補給」に心がけ、毎食、汁物を付けておられ、又、食事がカロリーオーバーにならないよう、朝食の主食はおかゆになっている。職員も、利用者を介助しながら一緒に同じ物を食べておられ、「〇〇さんのお好きなお芋ですね」と声をかけたり、調査訪問時には、デザートのみかんの味が話題になっていた。職員は、以前、調理の仕事をされていた利用者に、味付けの感想を聞いておられた。職員と一緒に食事の下ごしらえをされたり、ご自分で下膳される方も複数みられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各個人にあった食事形態で食事をして頂いており、水分も定期的に提供している。食事制限、体調管理、栄養管理など、医師とも相談しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きを声掛け行っている。また、必要な方は洗面所まで誘導し見守り介助を行い、全介助の方にはカーゼなどを活用し口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 食事の前後を目安に声掛けやトイレ誘導を行なっている。排泄チェック表に記入して個人の排泄パターンを考慮しながら対応している。利用者によってポータブルトイレを利用して頂くこともある。</p> <p>(外部評価) おむつを使用して入居される場合も多いが、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者のできることを見極めて、自立に向けた支援に取り組まれており、現在、半数以上の方が布パンツで過ごされている。建物上、制限があり、車いすを使用する利用者がトイレを使いやすいように、扉を外して2重にカーテンを付けておられ、使用中は、職員は他利用者が入らないよう気を付けておられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ヨーグルト、牛乳、季節の果物等の食材をふんだんに使用する。水分補給等その方にあった解消方法を常に検討し、実践している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 各個人その日の体調を観察しながら、声掛けして入浴して頂いている。どうしても拒否される方には、タイミングを見て声掛けを考えたり、時間をずらしたりして様子を見ている。</p> <p>(外部評価) 昨年、浴室を改装された。浴槽を交換されて、洗い場が広くなり、利用者も使いやすくなったようだ。入浴は、個々に週3～4回入れるよう支援されており、希望に応じて毎日入浴する方もおられる。現在2名の利用者は、ひとりで入浴されており、安全に入浴できるよう、職員は、それとなく見守っておられる。浴槽をまたぐことが難しい方は、家庭用リフトを使用して、浴槽で温まれるように支援されている。浴室から、職員と利用者の歌声が聞こえてくることもあるようだ。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人の生活パターンや夜間の様子などを考慮しながらスタッフ間でも話しあったりして対応している。寝具は季節や気温に気をつけて調整している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が薬の目的など理解できていない時もあるため一覧表を表示し、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人に合った役割や喜びや楽しみを持つことができるようにしている。意思表示できない方には表情等観察して支援したりもしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方と一緒に外出したり、希望された時には外出したりしているが、まだまだ行けていない事の方が多い。	
			(外部評価) 七折の梅や菜の花、奥道後のさつき展やコスモス等、ドライブを兼ねて季節の花を見に出かけておられる。6月には、小野川に蛍を見に行かれた。又、父の日には、男性利用者と男性職員で、近くにある温泉に出かけられ、帰りに外食を楽しまれた。お菓子や洋服の買い物の希望があれば、職員が車で支援されたり、喫茶店や外食の希望時には1～2名の利用者と職員で出かけておられる。又、事業所の庭にある畑には、季節毎に野菜を植えたり、手入れ、収穫を楽しまれている。重度の利用者の方も体調をみながら、庭に出て、外気にふれる機会を作っておられる。利用者から「懐かしい場所に行ってみたい」と希望もあり、今後さらに、個々の行きたい場所に出かけるような支援にも取り組みたいと話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に合わせて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される方がおられない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関前でメダカを飼ったり、玄関にいけばなを飾ったり季節感を感じてもらったりしている。庭では花や野菜を育てている。</p> <p>(外部評価) 居間やウッドデッキからは、一面に広がる田園風景や、紅葉した山をすぐ近くに眺めることができ、季節を感じるができる。調査訪問時、ウッドデッキで利用者がおひとり、いすに腰かけて日向ぼっこをされていた。玄関には、金魚が泳ぐ水槽が置かれ、事業所の庭に咲く花が飾られていた。玄関の上りかまちには、ステップが設置されており、車イス利用者が出入りする場合は、移動式のスロープを使用される。日中は、ほとんどの利用者が、食堂や居間で過ごされており、新聞を読んだ後、将棋の記事の切り抜きをされる方もいる。又、利用者同士や職員と将棋を楽しまれることもある。太陽光発電を設置され、オール電化の設備になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングに畳イスを設置し、そこで横になり足を伸ばしたり洗濯物をたたんだりされる。またリビングでは談笑されている。他の方と関わるのが苦手な方には職員が必要に応じて働きかけている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご家族に頂いた物を飾ったり、好きな人形を飾ったりしている。また落ち着けるように本人に合わせた家具を用意している。</p> <p>(外部評価) 民家を改修した3部屋と、増築した6部屋の居室がある。ベッドは備え付けだが、布団は個々に持ち込まれている。使い慣れたタンスや鏡台を持ち込まれたり、壁に時計や温度計を掛けている居室もみられた。ベッドで過ごされることが多くなっている利用者の居室は、ご家族が持って来られた音楽テープを、職員がラジカセで流しておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 個人に合わせた環境づくりに務めている。今まで行っていなかった事も個人の生活歴や好みに合わせた方法を検討するなどの取り組みを行っている。</p>	